

## ■■最強の投資手法「スーパーボリンジャー」によるシンプルトレード■■

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。  
分析は、全て、先週末 12月 15日の日足終値(NY 時間午後 5時)時点での判断です。

<<<主要 7 通貨相場週足、日足、4 時間足、1 時間足分析>>>

「週足」はポジショントレードの大局観把握、  
「日足」はスイングトレードの大局観把握、  
「4 時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、  
「1 時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。  
尚、特に、1 時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて  
判断することをお勧めします。  
例えば、ポジショントレードであれば、主に日足での売買判断、  
スイングトレードであれば、主に 4 時間足での売買判断、  
ゆったりデイトレードであれば、主に 1 時間足での売買判断、  
デイトレードであれば、主に 5 分足での売買判断となります。

### ■ドル円

<<週足>>  
調整反落局面の最終ターゲットである $-2\sigma$ ラインに到達。  
今後、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。  
尚、本格下落トレンド局面発生の際の「相場の下放れ」の条件は、  
1) 遅行スパンがローソク足から下放れる(陰転する)、  
2) 終値が $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、  
3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、  
4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $-2\sigma$ ラインをブレイクする、等々。  
上記の条件が整えば、売りエントリーが推奨される。  
一方、終値が $-1\sigma$ ラインを上回るとレンジ局面入りする可能性が高まるため、  
目先は買い戦略が推奨される。

## <<日足>>

本格下落トレンド局面。

終値が $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

## <<4時間足>>

調整反騰局面。

終値が $-1\sigma$ ラインを上回って以降、調整反騰局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は買いを優先させたい局面。

そして、センターラインは最初の戻りの目途となるが、終値がセンターラインを上回ると、 $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面に入る。

一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、遅行スパンが陽転しないかぎり、センターラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は、一旦は戻り売りゾーンと読む。

また、終値が $-2\sigma$ ラインを下回るまでは、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインのゾーンは一旦は押し目買いチャンスと判断する。

## <<1時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目前、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウントトレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、

4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+/-2\sigma$  ラインをブレイクすること、等々。

### ■ユーロドル

<<週足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウントトレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$  ラインから $+2\sigma$  ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$  ラインから $-2\sigma$  ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$  ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$  ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+/-2\sigma$  ラインをブレイクすること、等々。

<<日足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウントトレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$  ラインから $+2\sigma$  ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$  ラインから $-2\sigma$  ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$  ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$  ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+/-2\sigma$  ラインをブレイクすること、等々。

## <<4時間足>>

調整反落局面。

終値が $+1\sigma$ ラインを下回って以降、調整反落局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は売りを優先させたい局面。

そして、センターラインは最初の押しの目途となるが、終値がセンターラインを下回ると、 $-2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反落局面に入る。

一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は、一旦は押し目買いゾーンと読む。

また、終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインのゾーンは一旦は戻り売りチャンスと判断する。

## <<1時間足>>

本格下落トレンド局面。

終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

## ■豪ドル/ドル

## <<週足>>

レンジ局面の上限である $+2\sigma$ ラインに到達。

今後、本格上昇トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。

尚、本格上昇トレンド局面発生の際の「相場の上放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、買いエントリーが推奨される。

一方、今後、終値が $+1\sigma$ ラインを下回ると改めてレンジ局面入りする可能性が高まるため、目先は売り戦略が推奨される。

#### <<日足>>

本格上昇トレンド局面。

終値と $+1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $+1\sigma$ ラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $+1\sigma$ ラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープする一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

#### <<4時間足>>

調整反落局面。

終値が $+1\sigma$ ラインを下回って以降、調整反落局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は売りを優先させたい局面。

そして、センターラインは最初の押しの目途となるが、終値がセンターラインを下回ると、 $-2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反落局面に入る。

一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は、一旦は押し目買いゾーンと読む。

また、終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインのゾーンは一旦は戻り売りチャンスと判断する。

#### <<1時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウントトレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

### ■ポンドドル

<<週足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウントトレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

<<日足>>

レンジ局面の上限である $+2\sigma$ ラインに到達。

今後、本格上昇トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。

尚、本格上昇トレンド局面発生の際の「相場の上放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる（陽転する）、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、買いエントリーが推奨される。

一方、今後、終値が $+1\sigma$ ラインを下回ると改めてレンジ局面入りする可能性が

高まるため、目先は売り戦略が推奨される。

#### <<4 時間足>>

調整反落局面。

終値が $+1\sigma$ ラインを下回って以降、調整反落局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は売りを優先させたい局面。

そして、センターラインは最初の押しの目途となるが、終値がセンターラインを下回ると、 $-2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反落局面に入る。

一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は、一旦は押し目買いゾーンと読む。

また、終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインのゾーンは一旦は戻り売りチャンスと判断する。

#### <<1 時間足>>

本格下落トレンド局面。

終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

### ■ユーロ円

#### <<週足>>

調整反落局面の最終ターゲットである $-2\sigma$ ラインに到達。

今後、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。

尚、本格下落トレンド局面発生の際の「相場の下放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、

- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
  - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $-2\sigma$ ラインをブレイクする、等々。
- 上記の条件が整えば、売りエントリーが推奨される。
- 一方、終値が $-1\sigma$ ラインを上回るとレンジ局面入りする可能性が高まるため、  
目先は買い戦略が推奨される。

#### <<日足>>

本格下落トレンド局面。

終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、  
終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープ  
する一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

#### <<4時間足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる  
一方、終値が同ラインを上回ると $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。  
トレード戦略としては、緩やかな下落トレンドの特徴がセンターラインと $-2\sigma$ ラインの間を  
往来しながらゆっくりと下落するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は  
戻り売り戦略が有効となる。

#### <<1時間足>>

調整反騰局面。

終値が $-1\sigma$ ラインを上回ったことで、調整反騰局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は買いを優先させたい局面。

そして、センターラインは最初の戻りの目途となるが、終値がセンターラインを  
上回ると、 $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面に入る。

一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな下落トレンド局面  
に入る可能性が高まる。

尚、遅行スパンが陽転しないかぎり、センターラインから $+2\sigma$ ラインにかけての

価格帯は、一旦は戻り売りゾーンと読む。

また、終値が $-2\sigma$ ラインを下回るまでは、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインのゾーンは一旦は押し目買いチャンスと判断する。

### ■豪ドル円

#### <<週足>>

調整反落局面。

終値が $+1\sigma$ ラインを下回って以降、調整反落局面入りしている。

トレード戦略としては、短期的に一旦は売りを優先させたい局面。

そして、センターラインは最初の押しの目途となるが、終値がセンターラインを下回ると、 $-2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反落局面に入る。

一方、今後、終値がセンターラインをブレイクしないと、緩やかな上昇トレンド局面に入る可能性が高まる。

尚、遅行スパンが陰転しないかぎり、センターラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は、一旦は押し目買いゾーンと読む。

また、終値が $+2\sigma$ ラインを上回るまでは、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインのゾーンは一旦は戻り売りチャンスと判断する。

#### <<日足>>

本格下落トレンド局面。

終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

#### <<4時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。目先、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウントトレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

<<1時間足>>

レンジ局面。

遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であることが判断根拠。

目前、カウントトレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウントトレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる、もしくは、下放れる、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる（「エクスパンション」と言う）、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。

## ■ポンド円

<<週足>>

調整反落局面の最終ターゲットである $-2\sigma$ ラインに到達。

今後、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置しているが、終値が $-1\sigma$ ラインを上回っており、レンジ局面入りする可能性が高いと読め、終値が $-2\sigma$ ラインを下回らないかぎり、底堅い展開が想定される。

尚、本格下落トレンド局面発生の際の「相場の下放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から下放れる（陰転する）、

- 2) 終値が $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
  - 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクスパンション」と言う)、
  - 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $-2\sigma$ ラインをブレイクする、等々。
- 上記の条件が整えば、売りエントリーが推奨される。

#### <<日足>>

本格下落トレンド局面。

終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

#### <<4時間足>>

緩やかな下落トレンド局面と調整反騰局面が併存中。

終値が $-1\sigma$ ラインを上回って以降、調整反騰局面入りしたが、最初の戻りの目途であるセンターライン近辺まで上昇した後に反落している。

今後、終値がセンターラインを超えないかぎり緩やかな下落トレンド局面と読む一方で、終値が $-2\sigma$ ラインを下回らないかぎり、調整反騰局面継続のシナリオも残る。

トレード戦略としては、センターラインにかけては、一旦は戻り売りを優先させたい一方で、終値がセンターラインをブレイクすると、本格的な調整反騰局面に入ることから、一転して買い戦略が有効となる。

また、終値が $-2\sigma$ ラインをブレイクするまでは、押し目買い戦略が有効である一方で、終値が同ラインを下回ると、あらためて本格下落トレンド局面入りするため、売り戦略が有効となる。

#### <<1時間足>>

本格下落トレンド局面。

終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。  
そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

以上です。